

減災対策に関する各機関の取組

熊野川減災協議会

各機関の取り組み内容

- ◆ 和歌山県 : ・ウェブサイト、テレビで洪水予報、河川水位、カメラ映像、気象情報を提供
資料7-1
・避難所内での集団感染防止対策の徹底
- ◆ 三重県 : ・想定最大規模の降雨による浸水想定区域図の作成・公表
資料7-1
・危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラの設置
・裏法保護工
- ◆ 新宮市 : 新宮市Web版複合ハザードマップの作成・公表
資料7-1
- ◆ 紀南河川 : ・熊野川中学校における防災授業実施
資料7-1
・避難目安の水位ライン設置
- ◆ 気象台 : ・令和元年出水期における警戒レベルへの対応
資料7-2
・「自らの命は自らが守る」社会を支える取組

ホームページの改修

【改修内容】

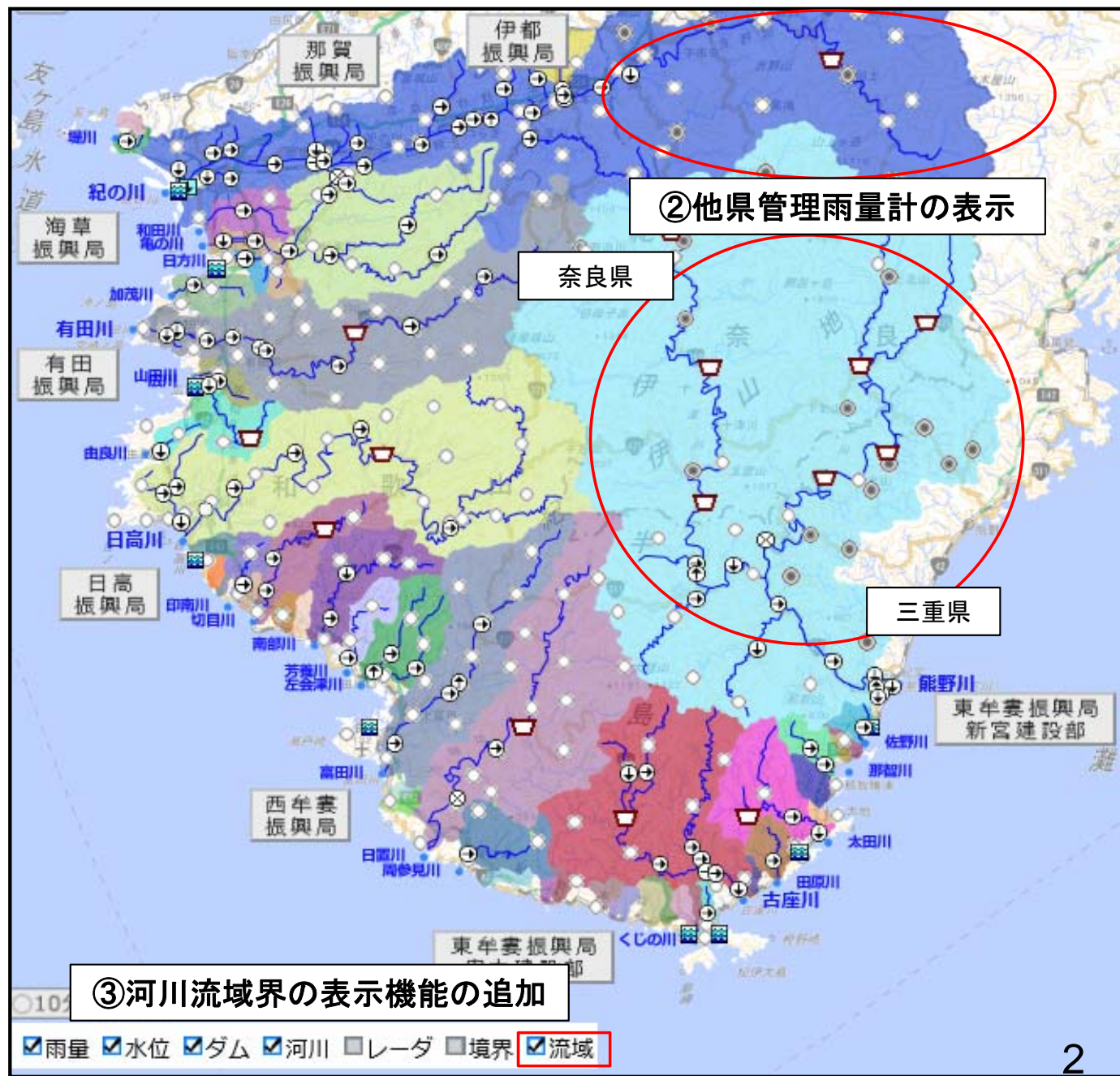
①河川監視カメラ及び水位計の増設

河川監視カメラ	93箇所
	H30: 42箇所増設
	R1 : 7箇所増設
水位計	86箇所
	H30: 6箇所増設
	R1 : 1箇所増設

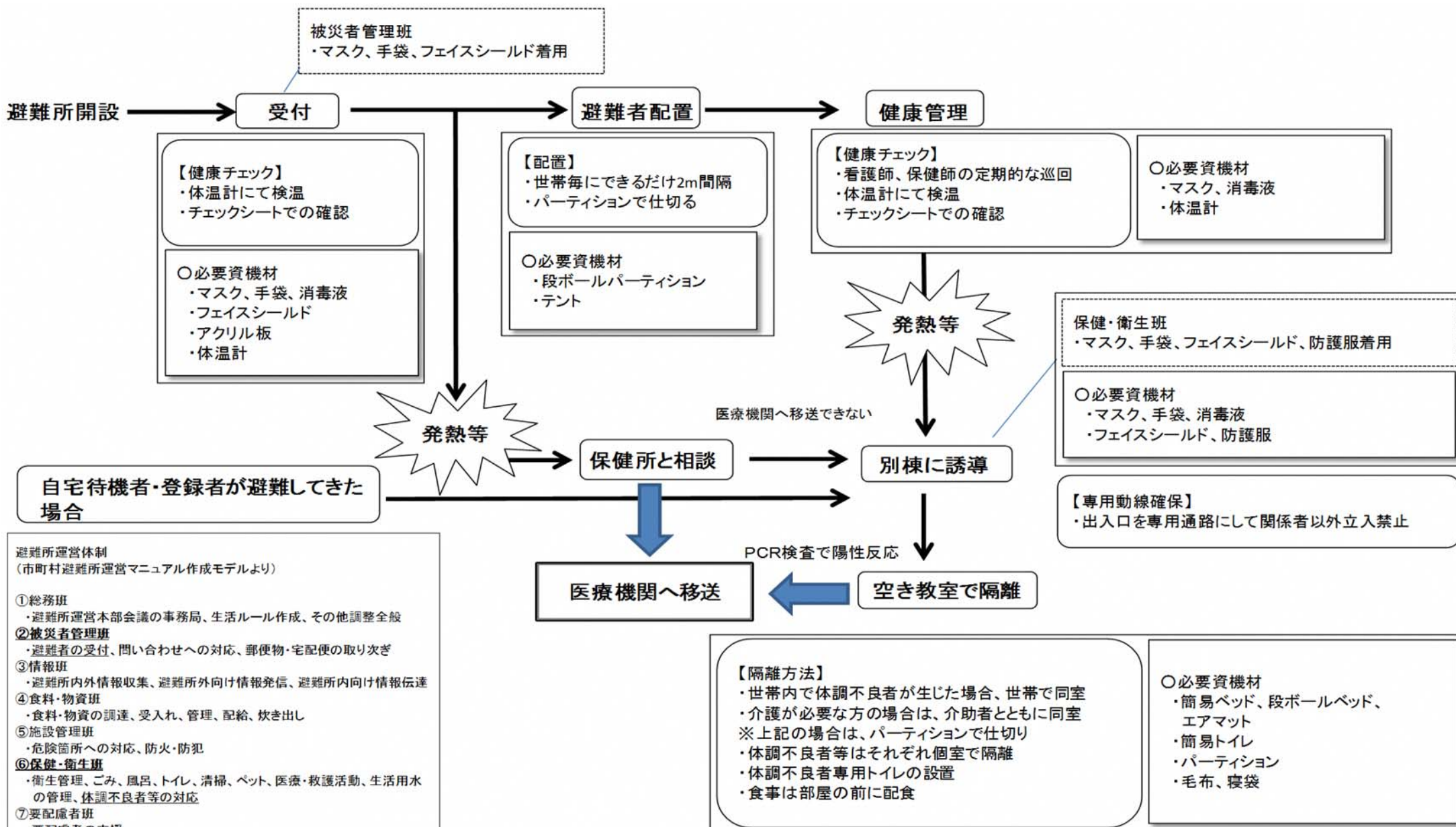
②他県管理雨量計の表示(R元年7月～)

紀の川の上流域	
奈良県	20箇所
熊野川及び北山川の上流域	
奈良県	12箇所
三重県	9箇所

③河川流域図の表示機能の追加 (R2年6月～)



●避難所内での集団感染防止対策の徹底



避難所運営体制
(市町村避難所運営マニュアル作成モデルより)

- ①総務班
・避難所運営本部会議の事務局、生活ルール作成、その他調整全般
- ②被災者管理班
・避難者の受付、問い合わせへの対応、郵便物・宅配便の取り次ぎ
- ③情報班
・避難所内外情報収集、避難所外向け情報発信、避難所内向け情報伝達
- ④食料・物資班
・食料・物資の調達、受入れ、管理、配給、炊き出し
- ⑤施設管理班
・危険箇所への対応、防火・防犯
- ⑥保健・衛生班
・衛生管理、ごみ、風呂、トイレ、清掃、ペット、医療・救護活動、生活用水の管理、体調不良者等の対応
- ⑦要配慮者班
・要配慮者の支援
- ⑧ボランティア班
・ボランティアの受入れ・活動調整

※必要資機材は市町村で国の臨時交付金等を活用し整備。段ボールパーティションは県で緊急整備。

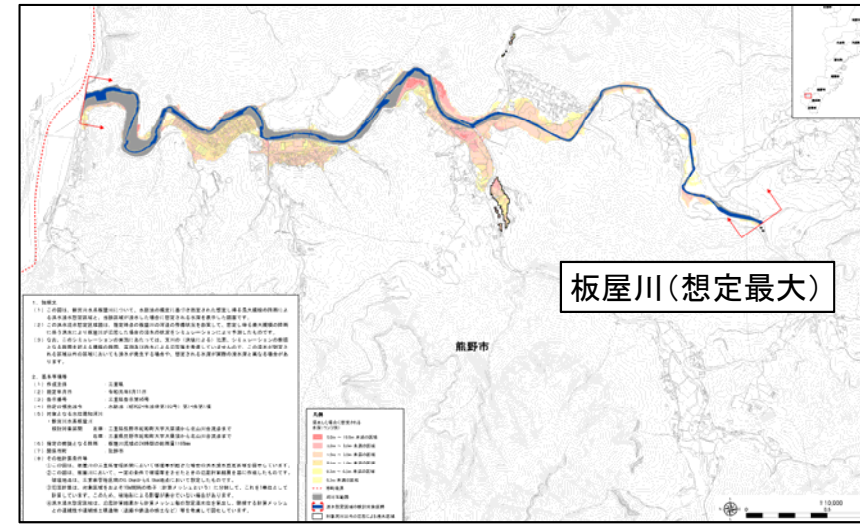
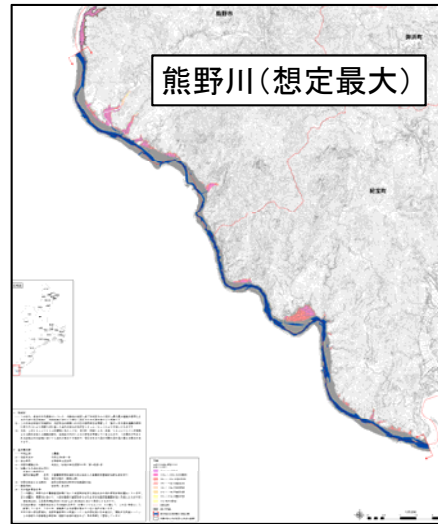
● 想定最大規模の降雨による浸水想定区域図の作成・公表

【令和元年度の実績】

- ・ R元年度までに県内の水位周知河川38河川および水位周知河川以外の71河川において洪水浸水想定区域図を作成、公表
- ・ 熊野川流域においては、R元年度に熊野川、板屋川（水位周知河川）および相野谷川（水位周知河川以外）について作成、公表

【令和2年度の取組】

- ・ R2年度に県内の水位周知河川以外の20河川において洪水浸水想定区域図を作成予定



● 危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラの設置

【危機管理型水位計の特徴】

- 洪水時に特化した低コストな水位計
- 長期間メンテナンスフリー（**無給電で5年以上稼働**）
- 省スペース（小型化）（橋梁等へ容易に設置が可能）
- 初期コストの低減
水位計本体費用は、100万円/台以下
- 維持管理コストの低減
 洪水時に特化した水位観測によりデータ量を低減し、IoT技術とあわせ**通信コストを削減**
- 護岸高の約1/2の水位で観測開始
- 5分単位で水位観測

【危機管理型水位計の設置】

- ・ R元年度までに県内全域で211箇所設置
- ・ 熊野川流域においては、R元年度に相野川（倉本橋）に設置

【簡易型河川監視カメラの設置】

- ・ R2年度に県内の水位周知河川38河川で設置予定

※設置数は、今後の調整状況等により増減することがあります。

危機管理型水位計 設置箇所
 （令和2年3月31日時点 熊野建設事務所管内）

番号	河川名	市町名	橋梁名
1	西郷川	熊野市	蛸橋
2	広田川	御浜町	養真橋
3	相野谷川	紀宝町	宮前橋
4	楊枝川	熊野市	楊枝橋
5	矢倉川	熊野市	八幡橋
6	尾呂志川	御浜町	新中立橋
7	市木川	御浜町	永通橋
8	神内川	紀宝町	日高橋
9	井田川	紀宝町	宮ノ前橋
10	相野谷川	紀宝町	平野橋
11	清水元川	紀宝町	浅里橋
12	跡田川	紀宝町	跡田2号橋
13	相野川	紀宝町	倉本橋

・・・熊野川減災協議会対象河川

●裏法保護工

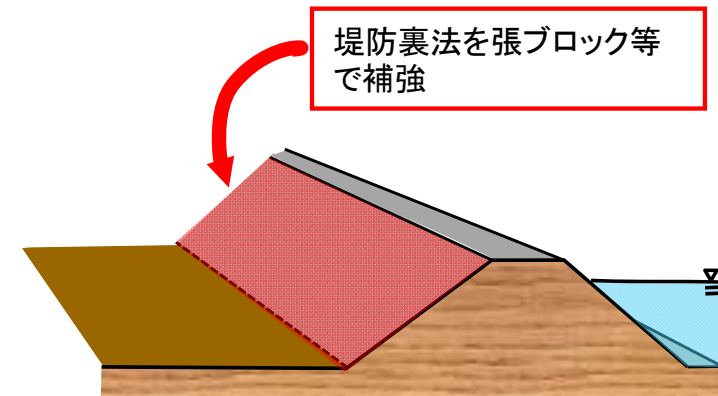
【令和2年度の取組】

- ・ R2年度に県内で危機管理型ハード対策を29河川実施する。
- ・ 熊野川流域では、北山川で堤防の裏法保護工などの危機管理型ハード対策を実施する。

位置図(北山川)



施工イメージ



①迫りくる危機を把握し、事前に回避するための避難行動、自主防災意識の向上
■ 平時から住民等への周知・教育・訓練

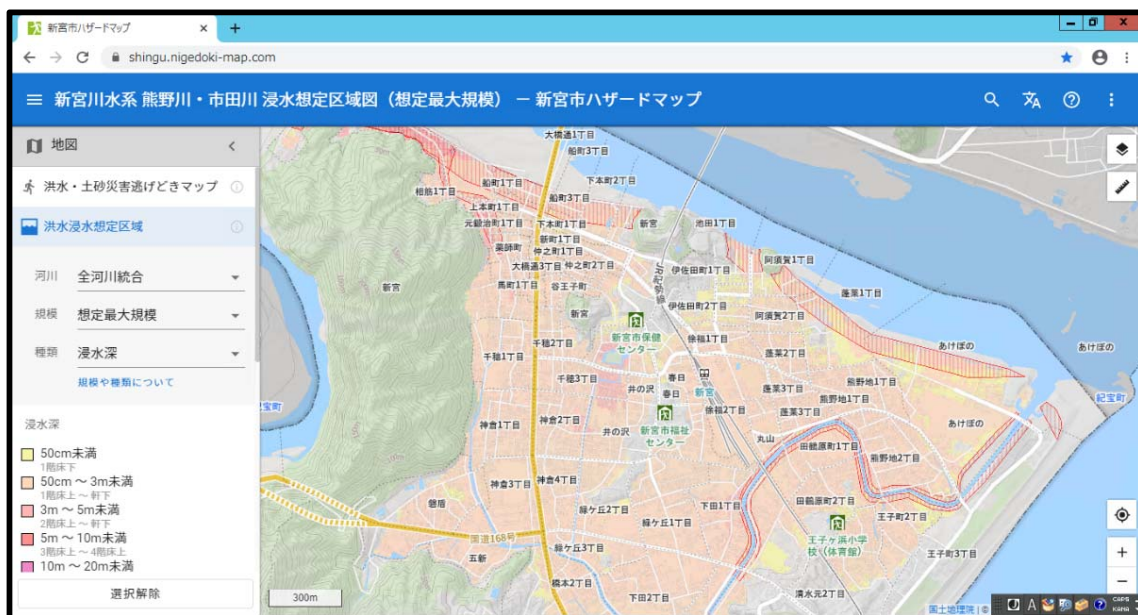
取組内容

新宮市

● 新宮市Web版複合ハザードマップの作成・公表 1/2

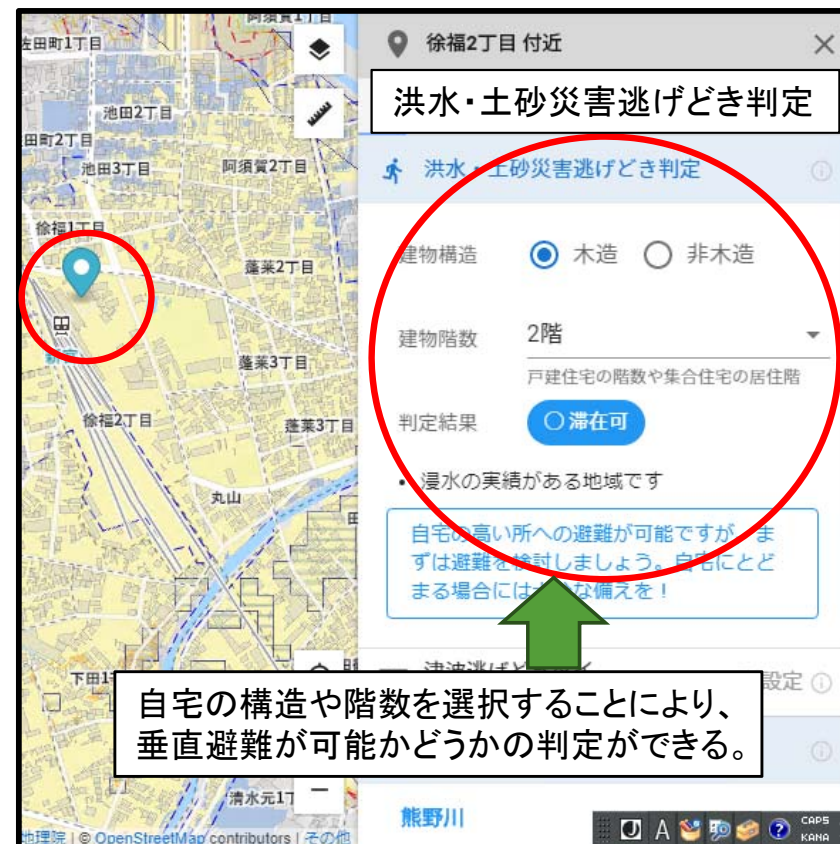
★洪水（熊野川・市田川浸水想定）・土砂（土砂災害警戒区域等）・津波（南海トラフ巨大地震）
について掲載したWeb版ハザードマップを作成し公表を行った。

＜新宮市防災アドバイザー片田敏孝氏（東京大学大学院情報学環特任教授） 監修＞



新宮市に想定されている災害について確認できるようになっている。

これを使うことにより、自宅や行く場所についてどのようなリスクがあるのかがわかるようになっている。



自宅の構造や階数を選択することにより、
垂直避難が可能かどうかの判定ができる。

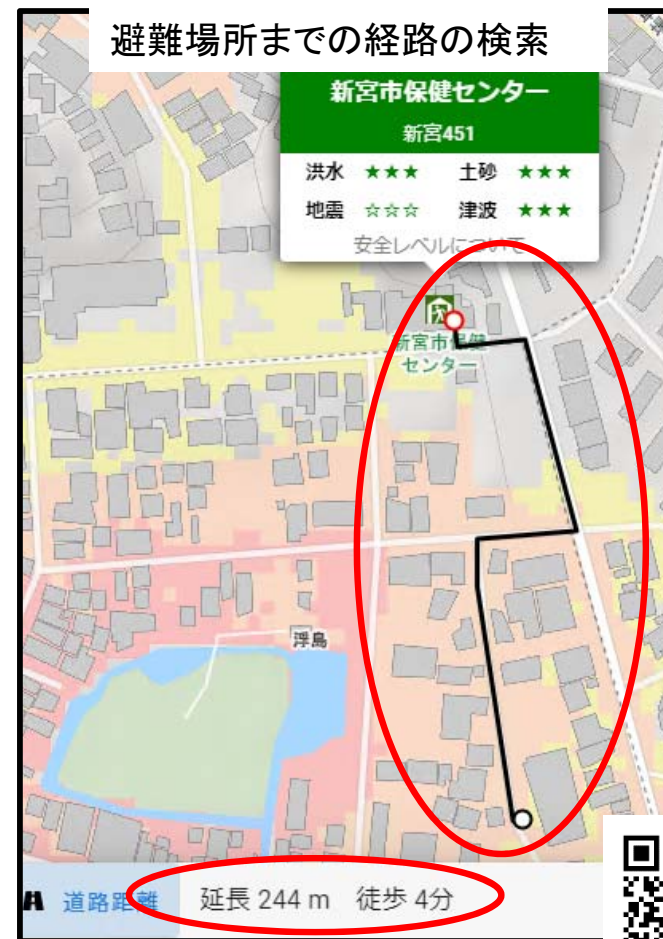
★既に公表しているマップは、日本語版であるが、今夏には、多言語版(英・中・韓の3カ国語対応)とする予定。

①迫りくる危機を把握し、事前に回避するための避難行動、自主防災意識の向上
■ 平時から住民等への周知・教育・訓練

取組内容

新宮市

● 新宮市複合Web版ハザードマップの作成・公表 2/2



これまでの浸水被害実績を確認することで、危険な地域を事前に把握できる。

★冊子版ハザードマップは、土砂災害警戒区域の指定完了後に印刷し、全戸配布の予定。(年末まで)

Web版複合ハザードマップは、右のURLからご覧いただくか、QRコードを読み込んでご利用いただけます。

<https://shingu.nigedoki-map.com>

● 熊野川中学校における防災授業の実施

防災授業

R1.12.4

新宮市立熊野中学校にて、防災教育の促進に係る取り組みの一環として防災授業を実施。防災授業は、知識を学ぶ『座学』と生徒自身が考えて参加する『グループワーク』の2部で構成。

座学	<ul style="list-style-type: none"> 大雨による被害の仕組み、避難のための情報について 地域の過去の災害について知る、身を守るための行動を考える
グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> みなさんが住んでいる地区で、どのような災害があったか？ 今後、大雨が降った時に自分、家族、地域をまもるためにどうしたら良いか？

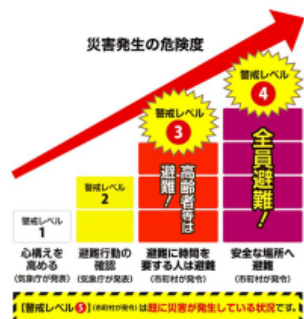
■ 日時: 令和元年12月4日(水) 13時30分～15時
■ 場所: 熊野川中学校 ■ 参加者: 生徒、地域住民



座学による説明

警戒レベルを用いた避難情報 と 防災気象情報

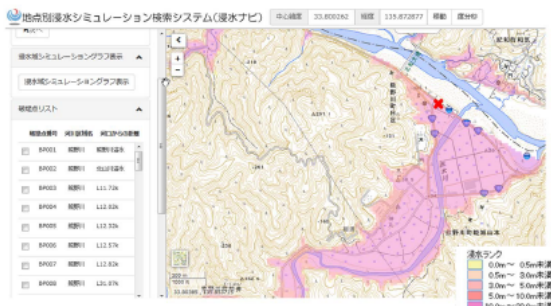
防災情報の意味が、直感的に理解できるよう、今年の6月から5段階の「警戒レベル」で防災情報を示すことになりました。



- ・ 台風の進路と傾向
- ・ 雨の量と河川の水位
- ・ 避難情報と防災気象情報
- ・ 情報の入手の方法
- ・ 洪水浸水想定区域図
- ・ 事前避難の重要性 等

洪水浸水想定区域図

国土交通省及び都道府県では、河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域及びその区域が浸水した場合に想定される水深も浸水想定区域図として公表



ワークショップ形式での
班別討議

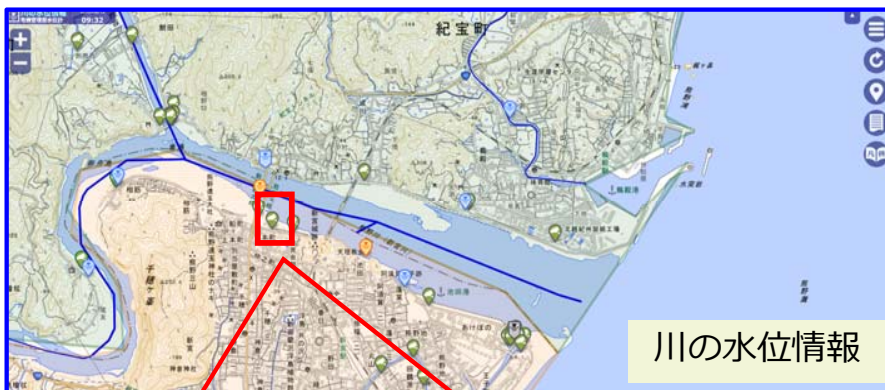


●「避難目安の水位ライン」設置

避難目安の水位ライン

事例紹介

■ 新熊野大橋への「避難目安の水位ライン」設置



「避難目安の水位ライン」
を取り付け



- 昨年度、新熊野大橋に設置。
- 新宮市も水位を随時把握するために活用している。
- 住民が「川の水位情報」から、カメラ画像を通じて直接的に把握することができる。
- **メディア連携**に繋げる取り組みの一環として、報道時の使用も想定して設置。
- その他の河川にも展開を検討。

今後の予定

今年度	市田川 下田観測所に設置予定。
	相野谷川 高岡観測所に設置を検討。